

テーマ	委員	概要	論点	今後の対応
①認定基準の変更内容について	城戸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房一次エネルギー消費量が指標に入っているのは良い観点だと評価している。 ・ここでの検討では暖房設備を「温水パネル+石油従来熱源機」に固定しているが、違う暖房設備とした場合どんな問題点が発生しうるのか。 ・新基準の数値設定は甘いのか、辛いのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房一次エネルギー量算定方法について ⇒算定にあたっての暖房設備に関する条件が固定なのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標を「全体の一次エネルギー消費量」とし、国の算定プログラムにより計算する。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・甘くも辛くもないレベルである。 		
	城戸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境都市推進部は、暖房機器をできるだけ効率の良いものにして行くことでCO2の削減に繋がるという考え方を持っている。 ・この指標によってユーザーが暖房機器の切り替えを高水準なものにしていくこと期待している。 		
②審査機関の拡大および補助制度見直しについて (補助制度見直し)	有吉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・補助制度の見直しについて、札幌版次世代住宅が国の基準とうまくフィッティングさせ、国の基準+αという形に整理されると、金融支援機構としても、金利優遇対象として判断しやすい。 ・ミニマムでいえば一次エネルギー消費量の等級4は確実に満たします。その上の等級5はスタンダードが目指します。さらにハイレベル、トップランナーは、といったようにしてもらおうと、税制優遇の対象とできるかが簡単に分かる。 ・金融支援機構では、国の新基準（評価制度）に基づいて今年4月から金利優遇の基準等の改定を済ませている。 ・これに（札幌版次世代住宅基準の新基準を）合わせてもらえれば、これより上であるということが分かれば金利優遇対象と判断できる。 ・提案のとおり、性能評価と確認申請、金融支援機構の適合審査がセットになると、それぞれの機関と調整しながら、どこでやったものがどこで使え、この基準に合えば低炭素の認定を受けて、金利利用プランはどれになって、手続きはこうなるという流れを整理するユーザーも分かりやすいし事業者も手間が減ると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金利優遇プランとの整合について ⇒金利優遇で基準としている国の制度とのフィッティングができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の方針に沿って算出されたUA値や一次エネルギー消費量を用いる。

テーマ	委員	概要	論点	今後の対応
②審査機関の拡大および補助制度見直しについて (補助制度見直し)	繪内座長	<ul style="list-style-type: none"> 札幌版次世代基準では最低基準はミニマムであるが、ベーシックの数が多い。札幌市ではもう一つ上のスタンダードを増やしたいと考えている。 これも含め、次回整合性のある案をだしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 普及ターゲットである「スタンダード」について 	<ul style="list-style-type: none"> ベーシックとインセンティブの差を設ける。
	山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 申請数も増えてきており、大変な状況であると思う。 受ける側としては住宅建築に関するすべての申請をワンストップで受けて、タイムリミットを決めながらスムーズな審査を進めている。 1件の申請で確認申請、適合審査、瑕疵保険、さらに国の補助制度に係わる省エネの審査と4つになる。もう一つ札幌市の次世代住宅基準となると5つになる。 特に、省エネの審査はいろいろなバリエーションがあるので1カ所で審査するのは良いことだと思う。 資料9に記載があるが、性能評価機関等で審査対応が可能か、外部審査に対応した基準策定について、早めの担当レベルでの詰めが必須ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部審査に対応した指標設定、体制について 	<ul style="list-style-type: none"> 外部審査機関で審査できる基準とする 基準案策定後、迅速に担当レベルでの打合せを行う。
	奈良委員	<ul style="list-style-type: none"> 札幌版次世代基準は、最も性能が良い投球のQ値が0.5以下と画期的な基準になっている。 1年目は工務店が代理人であったが、2年目からは外注事務所が代理人として申請をする例が増えた。 通常の省エネ基準の審査より厳しいため、外注事務所でも訂正内容が的確に伝わりづらく、申請する側も対応しづらいただろうと感じた。 省エネ基準も義務化されるが、義務化されるということは、提案にあったように、民間の確認を含めて一般の窓口で審査した方が、広く普及して件数が増えている状況においては意義が大きい。 		

テーマ	委員	概要	論点	今後の対応
意見交換 新基準(案)について	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ U A 値も一次エネルギー消費量も国の WEB プログラムを用いて算出した方がよい。 ・ 新基準の指標として暖房一次エネルギー消費量も挙げられているが、断熱 (U A 値) でここまで縛るのであれば、エネルギー消費量は住宅全体でよい。 ・ 一次エネルギーは暖房の話でも何でもなく、エネルギー消費を減らす話であり、手段は何でも良い。 ・ 前回の基準で難しかったのは、断熱基準 Q 値に換気が入ってきた点である。 ・ 換気の評価は一次エネルギー消費で行われているので、換気の評価はもう良い。 ・ 断熱は U A 値でしっかり評価して、一次エネルギー消費はどのような手法でクリアしても良いとした方が良い。 ・ 2020 年には全ての業者が WEB プログラムを使って申請することになるので、それと同じにした方が良い。 ・ 同時に、熱交換換気の評価については、建築研究所のレベルでは固定値を使っているので、その固定値を使って下さいというべきだと思う。 ・ 申請された熱交換換気のパフォーマンスを札幌市で判断しない方が良い。 ・ 熱交換換気の高性能のものについては、建築研究所で評価しているのでそのうちでと思う。 ・ 建築研究所では、温度交換効率 65% 以上のものについて 50% の温度交換効率で計算することとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新基準の指標について ⇒ 国の算定基準と合わせられないか。 ⇒ 換気の評価は行わなくて良いのでは。 ⇒ 一次エネルギー消費は手段を暖房に限定しない方が良いのでは。 ⇒ 熱交換換気の評価については、建築研究所では固定値を使っているので、その固定値を使うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価指標を全体の「一次エネルギー消費量」とし、国の算定プログラムにより計算する。 ・ 一次エネルギー消費量は住宅全体で評価するとする。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初はそうであったが、今年の 10 月から見直されている。温度交換効率は 40% から 95% まで設定できる。 		
	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうであれば温度交換効率の 6 掛けとすべき。 ・ 実際に運用を調べると換気量は 60% である。 ・ 0.5 回/h の熱交換換気とするのであれば、プラスで残りの 0.2 回/h 換気をしないとイケない。 ・ 高性能な暖房設備を付けた方が効果があるのに、熱交換換気の方が重要視されているのは如何かと思う。 		

テーマ	委員	概要	論点	今後の対応
新基準(案)について	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 新基準案で暖房方式を固定にしたのは、換気の評価するためである。 暖房方式の評価が認められれば、熱交換換気でクリアする必要はなくなる。 		
	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> 国の新基準では設備の評価は分かれてしまった。 設備には太陽電池も入っているが、市としては太陽電池も進めている。 札幌版次世代基準の一番先進的なところは、断熱性能があるレベルで高い目標を示したところが素晴らしいところであった。 それ断熱性能は分けてUA値として示されたので、あとは国の評価方法で良いと思う。 そうすれば金融支援機構ともマッチングができる。 そういう意味でもWEBのプログラムの計算結果を使うようにした方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 新基準の指標について ⇒次世代住宅は断熱性能(UA値)をしっかりと示し、残りは国の評価方法で良いのでは。 ⇒金融機構とのマッチング上もその方が良いでは。	<ul style="list-style-type: none"> 評価指標を全体の「一次エネルギー消費量」とし、国の算定プログラムにより計算する。
	杉村委員	<ul style="list-style-type: none"> 市が目指しているのはあくまで次世代住宅である。 資料5の別添にある札幌市が認定する高断熱・高気密住宅である。 照明のLEDや太陽光パネルでエネルギー消費を減らすということは大事ではあるが、UA値がそれほどなくても住宅全体として良い評価を得られてしまうのは問題であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 新基準の指標について ⇒次世代住宅の本来の趣旨である、高断熱・高気密住宅をきちんと評価したほうが良い。	<ul style="list-style-type: none"> 断熱(UA値)重視の指標設定とし、高断熱・高気密住宅をきちんと評価できる指標とする。
	繪内座長	<ul style="list-style-type: none"> これまでの札幌版次世代住宅基準は、いわば方言のようなものであった。福島委員の意見は、それを標準語で伝えるようにしようということであって、内容は変わらない。 これまでの札幌版次世代基準の考え方を変えるものではない。 		<ul style="list-style-type: none"> 次世代住宅の基本的な考え方は変更しない。